

# 「菜の花」 (対象：小学校高学年～中学校)

## 1 授業のねらい

<知的理解に関して>

身分制度について、分断支配の一環の差別を強化する施策として、「別の身分とされた人々」がしてはいけないことを定め、強いていたことが理解できる。

<人権感覚に関して>

庄七がどんな気持ちで「この仕打ちはわすれんぞ」と言ったのかを、本村のもんがいつもカクウチ酒を飲んでいてをどのように見ていたのかを考える活動を通してとらえ、本村のもんと同じ飲み方をしただけなのに庄七だけが獄門になることの理不尽さを訴えていることがわかる。

## 2 教材について (教師が知っておくべきこと)

本教材「菜の花」は実話で、桜田門外の変(1860年)頃の事件である。福岡市在住のトモエ唄(当時99才)からの話に基づいて、作者である松崎武俊が子どもの学習用に作成したものである。

当時「むらのもん(町民や百姓とは別の身分とされた人々)」は、さまざまな「してはいけないこと」を厳しい身分制度により決められていた。酒屋の中でマス酒を飲む「カクウチ酒」もその一つである。

「むらのもん」は店の外でドンブリにマス酒を分けてもらう「ウチアケ酒」を家に持ち帰り飲むしかない。庄七は「カクウチ酒」をいつも店の中で飲んでいる「本村のもん」を見て「おれもにんげんばい。一ぺんだけでよか、あの、カクウチ酒ば飲んでみたか。」と口癖のように言っていた。ある日、庄七はとうとう酒屋の中で「カクウチ酒」を飲んでしまう。それを酒屋の主人が奉行所に訴えたことで、庄七は獄門にかけられることになってしまった。獄門にかけられる時、庄七は「むら」の方に向きなおって、「おれは、むらで一番にカクウチ酒ば飲んだけん、死んでもよかばってん、この仕打ちはわすれんぞ。」と強烈な怒りの言葉を残して首をはねられる。その後、酒屋はつぶれ、屋敷は荒れ果て、菜の花畑になってしまった。被差別の立場に置かれた庄七の悔しさや怒りが伝わってくる話である。

部落差別学習を行う上で、ただ単に身分制度を教え、「こんな制度はおかしい。差別はいけない。」と言うだけでは不十分である。被差別の立場に置かれた人々の悔しさや怒りといった人間的な感情への共感を土台として、「差別はなぜいけないのか」の理由についてとらえさせることが必要であると考えられる。本教材は、ただ「酒を店の中で飲む」という「本村のもんと同じ事」をしただけなのに、庄七だけが獄門にかけられるという話である。子どもたちは、庄七の「おれもにんげんばい。」や「この仕打ちはわすれんぞ。」という言葉をもとに、被差別の立場に置かれた庄七の悔しさや怒りに迫ることができるであろう。庄七の心情をもとに、「同じ事をして一方だけが差別される」ということの理不尽さに気づかせることのできる資料であると考えられる。

### 3 教材のあらすじ

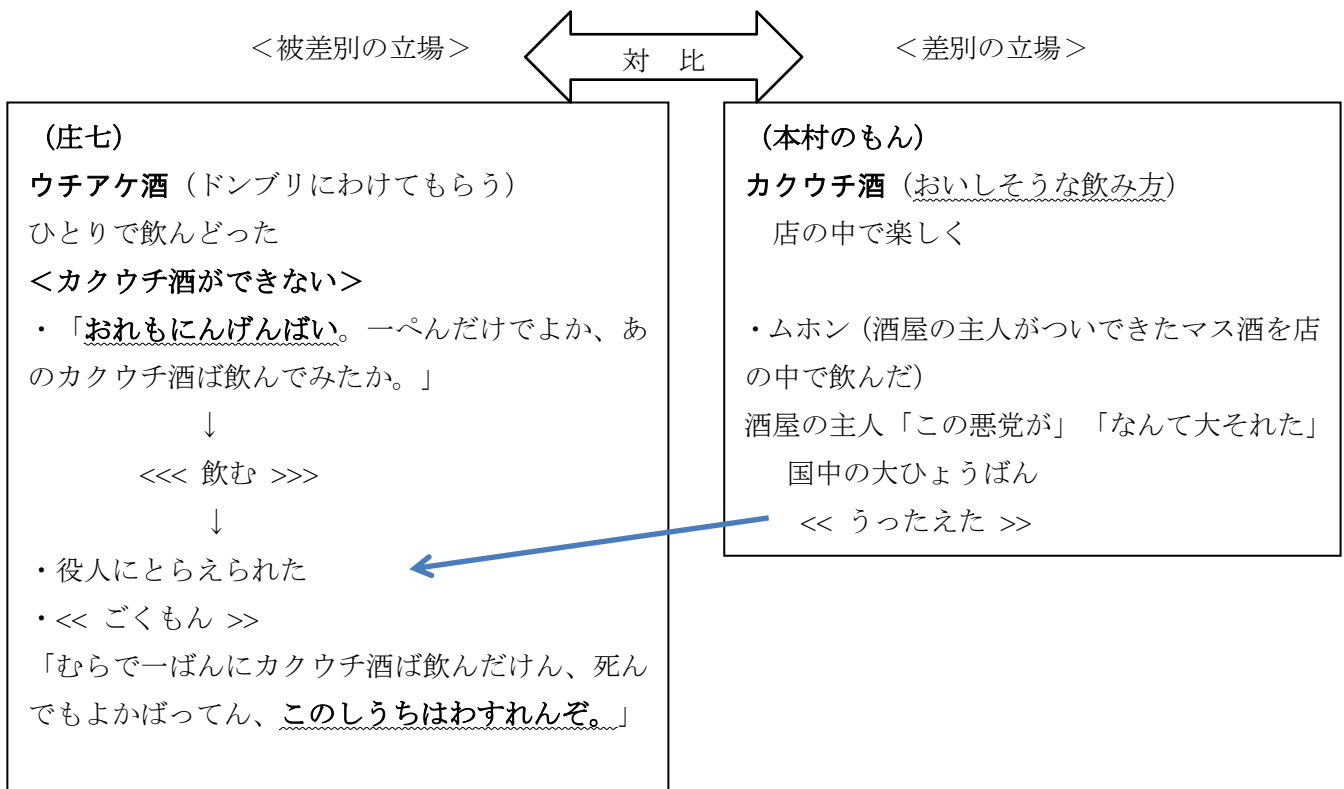
#### ○出てくる言葉と当時の身分制度について

- ・むかし→1860年（本当にあった話）

差別をすることが当然（そうしないとしょぶんされることもある）の時代




- ・皮すきの庄七・むらのもん→別の身分とされていた人
- ・本村のもん・庄屋さん・酒屋→町民または百姓
- ・お上、サムライ→武士

#### ○庄七と本村のもんとの対比と庄七の行動について



4 学習展開

授業時数については、2時間程度の扱いを想定

学習活動	指導及び支援の留意点
<p>1 教材文のあらすじをつかむ</p> <p>2 カクウチ酒を飲んだ庄七の心情を考える</p>	<p>○別表のように、本村のもん庄七との言動を対比させ、差別と被差別の構造をとらえやすいようにする。</p> <p>○飲んではいけないことになっていたという事実を押さえ、「それでも庄七がカクウチ酒を飲んだのはなぜだろう？」と問い、ただ単に酒が飲みたかっただけではないことを確認し、下図のように整理する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>&lt;酒が好きだから&gt; 「おいしそうな飲み方」に着目して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウチアケ酒ではまんぞくできなかった</li> <li>・カクウチ酒をずっとしたかった</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">それだけではない</div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>&lt;ごくもんになる事を覚悟して&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死んでもいいからマスで飲みたい</li> <li>・死んでもいいから店の中で飲みたい</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>&lt;本村のもんと同じようにのみたかったから&gt;</p> <p>「おれもにんげんばい」に着目して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おれも人間だ、同じ飲み方をしてもいいじゃないか</li> </ul> </div> </div> </div>	
<p>3 課題を位置づけ「このしうちはわすれんぞ」と言った際の庄七の心情に迫る。</p>	<p>○カクウチ酒を飲んだ庄七の気持ちが理解できたところで、カクウチ酒をしたことで獄門になったという文章事実に立ち返らせる。獄門になる時に「この仕打ちはわすれんぞ。」と言った時の気持ちに焦点をあてさせながら問いかけ、それぞれの考えや視点のズレを生じさせることで、課題を位置づける。</p>
<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>課題：庄七はどんな気持ちで「この仕打ちはわすれんぞ」と言ったのだろうか？</p> </div>	
<p>○「3つの視点」を活用し、考えを深めさせる。</p> <p><b>【自己選択・決定①】</b> 自分の考えを持てるよう、ワークシート等を活用し記述させる。</p> <p><b>【自己存在感】</b> 個→グループ→全体 等の考えを出し合う、示す場を工夫する。</p> <p><b>【共感的関係】</b> 課題に対する考えを以下の視点で分類し、話し合う。</p>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>「たった、カクウチ酒ば飲んだだけなのになあ」をキーワードに</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>&lt;酒屋の主人に&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「このあくとうが」と言われた</li> <li>・お上にうったえた</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin: 0 20px;"> <p>訴えたことで</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p>&lt;ごくもんになるきまりに&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カクウチ酒を飲んだだけなのに</li> <li>・本村のもんはみんなやっているのに</li> </ul> </div> </div> </div>	

<p>4 まとめをする。</p>	<p>○意見が出そろったら、2つの共通点を押さえる。更に「<u>うったえた酒屋への怒りの気持ちか?</u>」と問い、庄七の怒りが誰に対するものかや怒りの中身について考えを深める。</p> <p>○「<u>たった、カクウチ酒を飲んだだけなのに</u>」をキーワードにして、ごくもんとは、悪いことをした人がされることだが、庄七のしたことは悪いのかどうか目に向けさせる。庄七のしたことは悪いことではなく、人間として当たり前のことをしただけなのに、<b>庄七だけが獄門になる理不尽さ</b>を明らかにする。</p> <p>○更に、「<u>むらの方へ向きなおって</u>」をキーワードにして、「人間として同じ事をする事さえ許されない悔しさ」を同じむらのもんへ訴えたい気持ちがあったことを押さえる。</p> <p>○出された意見をもとにまとめにつなげる。</p> <p><b>【自己選択・決定②】</b></p> <p>自分の考えと友達のを比べて考えさせる。考えの変容や深まりを記述させる。</p>
	<div data-bbox="256 1106 1273 1308" style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>まとめ (例) :</p> <p>(本村のもんと同じ事をしただけなのに)</p> <p>自分だけが獄門になる理不尽さに対する怒りの気持ち</p> <p>(「怒り」などの心情を表す言葉は、児童生徒からでてきたものを使う)</p> </div> <div data-bbox="161 1368 1433 1626" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>日常生活への振り返り</b></p> <p>庄七の心情をもとに、「同じ事をして一方だけが差別される」ということの理不尽さに気づくことができたなら、自分たちの身の回りにも同じようなことがないか考えさせる。例えば、同じ事をしてAさんは許されるのに、Bさんはいつも文句を言われるなどは、学校の中でもありうる。やったことの中身ではなく、立場で差別されるような状況がないかを見直させたい。</p> </div>